

あかし漁網まつり

～漁網deアップサイクルの輪を広げよう～

報告書



日時：2025年9月28日（日）10:00～14:00

場所：明石浦漁業協同組合敷地内（明石市岬町）

主催：一般社団法人neo-wave

趣旨・背景・概要

明石は「海のまち」「魚のまち」

明石市は瀬戸内海に面し、日本有数の漁場を有する「海のまち」。潮流の速い明石海峡で育つ明石ダイ、明石ダコなど多種多様な魚が水揚げされる「魚のまち」でもあります。

多様な漁法と漁師町の地域文化

明石では昔から漁業が盛ん。漁法も多様で、小型底びき網、船びき網、吾智網、タコつば、一本釣りなどの漁船漁業が行われています。ノリの養殖は兵庫県が全国一の生産量を誇り、県内産の約4割が明石市でつくられています。市内には5つの漁協があり、漁港や漁師の生活とともに「浜」の文化と景観がつくられ、育まれてきました。

漁網で新たな物語を

漁港を見渡すと、たくさんの漁網や漁具が置かれています。海の幸を届けてくれる、漁業者の大切な商売道具です。一方で、役割を終えると、多くは産業廃棄物として処理業者に渡しているのが現状です。

私たちは「漁網deアップサイクル」の取り組みによって、漁業や海洋環境への関心を高め、漁網という素材で新たな文化をつくり、人と海をつなぐ物語を発信したいと考えています。

開催目的とコンセプト



漁業や海の現状を知り、まちを誇りに

明石の漁業、海の幸を届けるために働く人々、栄養塩が減っている海の現状、「豊かな海」を目指す取り組み…海と暮らす人たちの思いや課題を多くの人に伝えたいと考えています。そうしたメッセージを、役割を終えた「漁網」に託して届けます。



役割を終えた漁網、利活用の輪を広げ発信ツールに

漁業での役割を終えた漁網を、その素材のまま利活用する提案。農作物の鳥獣被害防止やつる植物用、ゴミステーション用、バッグやコサージュなどの新商品開発、アート作品、袋、ワークショップ体験など、さまざまな用途として生まれ変わっています。環境・産業・教育など、幅広い場へ「漁網deアップサイクル」の輪が広がっています。



「漁網deアップサイクル」を明石・兵庫のプロジェクトに

環境問題やSDGsへの関心が高まる中、2025年6月には大阪・関西万博で開催された「BLUE OCEAN FES.」に出展するなど、「漁網deアップサイクル」も注目されるようになってきました。漁網によって新しい文化や交流を生み出すとともに、先進的に豊かな海を目指して取り組みを進めている明石・兵庫発プロジェクトとして、「漁網deアップサイクル」を打ち出していきたいと考えています。

企画内容

初開催を目指す「あかし漁網」まつりは
「漁網deアップサイクル」の取り組みが集結し
新たな漁網の利活用を提案するイベントです

① 漁網ファッションショー

地元出身・在住のヘアメイクアーティストが演出、地域の子どもや漁師がモデルを



② 漁網作品の販売

バッグ、スマホホルダー、コサージュ、キーチャームなど



③ 漁網ワークショップ

バッグ、ボトルホルダー、ミニハンモックづくり。大人も子どもも楽しめる陸の漁業体験

④ 漁業者による漁網縫いの実演

漁師が漁網を縫う姿を間近で体感



⑤ 漁網千本引き

漁網と漁業用ロープで作ったくじ引き。海関係の商品、イベントや地域で使える金券など

⑥ 市民出展・提案コーナー

団体、アーティスト、企業などが出展予定。新商品販売、作品展示・販売、使い方提案など

報告＝全般

◎概要

日時：2025年9月28日（日）10:00～14:00

場所：明石浦漁業協同組合（明石市岬町）

主催：一般社団法人neo-wave

備考：明石新浜軒先マルシェと同時開催

（主催＝一般社団法人すまい研

共催＝まちづくり大観地区協議会、明石浦漁業協同組合）

◎気象状況（2025年9月28日10～14時）

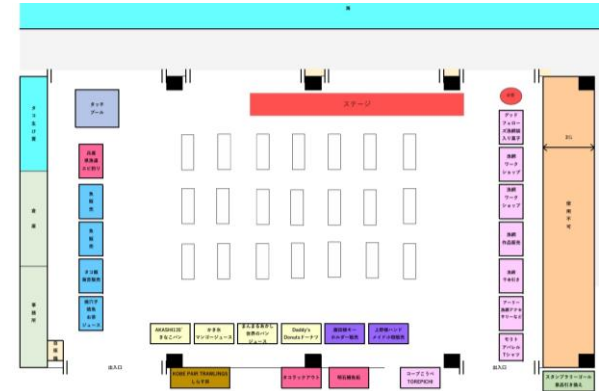
曇り／気温 26.4～26.5度／風 南東4.7～5.5m／降水量 0mm

◎来場者（主催者発表）500人 ※軒先マルシェ600人から推定

明石新浜軒先マルシェの会場の1つで、スタンプラリーのゴールでもある

明石浦漁協の敷地の一部を、あかし漁網まつり会場としてお借りしました。

軒先マルシェのチラシにも掲載していただきました。



↑ 明石浦漁協内の配置図
ピンクが漁網まつり、赤がステージ



↑ 明石新浜軒先マルシェ
チラシ裏面
あかし漁網まつりも記載

報告＝全般、漁網ファッションショー①

◎漁網ファッションショー・スタッフ（18人）

企画・ヘアメイク：歯朶原諭子さん（ヘアメイクアーティスト）

衣装：KATO SACHIさん（コスチュームアーティスト）

※制作＝Yasukoさん

アーリー就労支援事業所

Tシャツ提供＝モリトアパレル

ウォーキング指導：牛ノ濱弘美さん

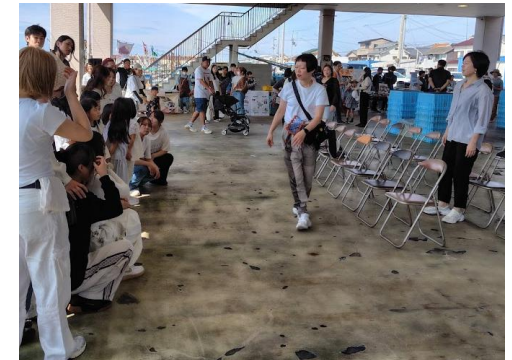
音響：人見勇太郎さん

ヘアメイク補助：神戸理容美容専門学校

バンタンデザイン研究所 ほか

◎モデル（26人）

9月18日まで約2週間、SNSや口コミで募集
きょうだい・お友達同士、公務員（明石市、兵庫県）、
学生、プロのモデル、アーリー就労支援事業所ほか、
子どもから大人まで個性豊かな方々が集結



↑リハーサルの様子
中央・歯朶原さん、右・牛ノ濱さん

↓ヘアメイクの様子



漁網deアップサイクル
ファッションショー
モデル募集

ヘアメイクして
漁網グッズPR

1人でも
複数でもOK

あかし漁網まつりで実施
開催日：2025年9月28日（日）
場所：明石浦漁協
対象：年齢、性別問わず
参加費：無料
※応募多数の場合は、大瀬小学校区在住者を優先します

【概要】
海を背景にしたランウェイで
漁網グッズを身につけて歩きます
午前10時集合、本番は午後1時から
プロの指導で歩き方の練習、ヘアメイクもあります
上下白色の服、靴を持参または着用してきてください
1人、親子やきょうだい、友達同士での参加も可能

申し込みはこちら
9月18日午後6時締切

主催：一般社団法人ao-wave プロデュース：歯朶原諭子 協力：神戸理容美容専門学校

モデル募集チラシ

報告＝漁網ファッションショー②

◎本番

漁網の衣装やグッズを身に着けてモデルたちが
明石浦漁協敷地内のランウェイを歩きました。
多くの方が見守り、大きな拍手が送られまし



報告＝漁網作品の販売＆ワークショップ

◎漁網作品販売

漁網アーティストYasukoさんが生み出す作品

バッグ、スマホホルダー、コサージュ、チャーム

名刺入れは新作

漁業者がつくった袋も販売



◎漁網ワークショップ3種類

バッグ、ボトルホルダー、ミニハンモック（大、小）



摂南大学の学生5人もスタッフとして漁網グッズづくりをサポートしてくれました

報告＝漁業者による漁網縫いの実演

◎吾智網漁業で明石鯛をとっている漁師2人が登場

ステージにて、明石浦漁協の漁師や職員が、明石鯛の魅力を語り、脂と鮮度を測る「フィッシュアナライザ」を使う場面を紹介。

その後、針と糸で実際に網を縫う様子を披露してくれました。

次々と縫われていく様子に早業に驚きの声があがり、写真に収める人も。

続いて、立候補してくれた地元の小学生が網縫いに初挑戦。

漁師から縫い方を教わり、サポートを受けながら丁寧に縫っていきました。

堂々とした網縫いに、大きな拍手が送られました。



報告＝漁網千本引き

◎漁具で手作りした千本引き装置

「まつり」らしく、漁業をモチーフにしたくじびきを企画、
本体をワイヤーネットとポールで組み立て、上部はタコつぼやイワ（重り）で作成。
景品は漁網でつくった袋の中に入れ、タコつぼ漁業用のロープの先に取り付けました。



◎景品は地元の店舗や団体、イベント出展者にご協賛いただきました

- ・浦正＝特選おまかせにぎり9貫お食事券（2本）
- ・まんまるカフェ＝金券2枚（2本）
- ・今中＝玉子焼1人前お食事券（10本）
- ・Chantilly Café＝お食事券（1本）＋ソフトドリンク券（10本）
- ・AKASHI I 35° 会＝イベント当日金券（10本）
- ・KOBE PAIR TRAWLINGS＝神戸夜明けのしらす丼（10本）
- ・アーリー就労支援事業所＝米2キロ（1本）
- ・グッドフェローズ＝米粉の菓子詰め合わせ（2本）
- ・明石卸売市場管理センター＝書籍「明石の誇り 海の恵み」（15本）
- ・明石浦漁業協同組合＝漁網袋入り焼き海苔（5本）＋漁網袋入りもみのり（5本）
＋パパたこぬいぐるみミニたこつぼ付き（10本）
- ・neo-wave＝豊かな海バスソルトセット（25本）＋漁網ボトルホルダーと飲み物（6本）



流通科学大学のバングラディシュからの留学生3人もスタッフとして活躍してくれました

報告＝市民出展・提案コーナー

◎地元の3団体・企業が出展

- ・アーリー就労支援事業所＝イヤリングやピアスをはじめ漁網アクセサリー販売 など
- ・グッドフェローズ＝漁網サコッシュ入り米粉菓子販売 など
- ・コープこうべTEAM TOREPICHI＝漁網バッグ入りお菓子販売、漁網に飾った切り身クイズ など



◎東京のアパレル会社が漁網由来のTシャツ販売

服飾付属品の専門商社モリトアパレルが
廃漁網由来のナイロン繊維を用いて
女子美術大学の学生がデザインして今夏発売した
4種類のTシャツを販売しました。



反響、メディア

◎漁協にブースとステージ、多くの来場者

天気にも恵まれ、会場は多くの方でにぎわい、漁網で繰り広げられる世界を体感してもらえました。「また開催してほしい」「別のイベントでも漁網ファッションショーをしてほしい」などと、ありがたい反響も寄せられました。

◎メディアで取り組み紹介



2025年10月20日水産経済新聞掲載



2025年9月30日
神戸新聞明石版
(明石新浜軒先マルシェの
記事の中で紹介)



多数の観客に鑑賞していただいた
漁網ファッションショー
漁協を仕事の拠点とする漁業者も
見守り拍手を送ってくれました



2025年9月21日
サンテレビ「あんてなサン」
イベント情報を告知放送

←海と日本プロジェクトinひょうご
(事務局サンテレビ)HPに
紹介記事掲載

総括、御礼

漁協という漁業の拠点で、役割を終えた漁網づくりのイベントを開催することができたことを大変うれしく思っております。会場を提供いただいた明石浦漁業協同組合、ファッションショーを仕切ってくれた歯朶原諭子さんと関係者の方々、新商品提案などで盛り上げてくれた出展4団体・企業、網縫いを実演してくれた漁業者、千本引きの景品を協賛いただいた地域の店舗・団体、ブースと一緒に動いてくれた学生、漁網の世界に触れてくれた来場者。そして、いつもneo-waveで共に有意義に楽しく活動してくれている仲間たち。すべての皆様へ、**心より感謝申し上げます。**

振り返ると、初めて漁網でYasukoさんに作品をつくってもらったのが2023年秋。イベントへ出展するようになり、24年春に「漁網deアップサイクル」とプロジェクト名を付け、地元で展開するうちに、東京や広島のカしに招かれ、大阪・関西万博へ出展するなど兵庫県外からも注目されるようになってきました。明石・兵庫発の活動として発信し、漁網の取り組みを集結させた「漁網まつりを開きたい」と構想し始めたのが半年ほど前。地元出身・在住のヘアメイクアーティスト歯朶原諭子さんに伝えたところ「ぜひやりましょう」と賛同してくれ、一気に動き出しました。

さまざまなアイデアと熱意が集まり、笑顔あふれるイベントとなったことに胸が熱くなりました。これまでの活動を披露したことに加え、さらなる可能性を感じられる機会にもなりました。漁網deアップサイクルは、海や漁業の現状を伝え、SDGsな取り組みであると同時に、明石・兵庫の漁師町の文化としても育てていけたらという思いが強くなっています。漁網を通して輪が広がっていくよう、ますます楽しく頑張ってまいります。これからもよろしくお願いいたします。

2025年10月吉日 一般社団法人neo-wave代表理事 金山成美